



親子で食育について 学ぶ

6月3日(土)、親子料理教室「食材を知ろう」が、町農林振興課の主催で開催されました。

これは、地産地消の魅力や食育の大切さを学んでもらおうと6月の食育月間に合わせて実施したもので、参加した家族は浜田農園でミニトマトや玉ねぎ、きゅうりを収穫した後、大丸地区農業構造改善センターに移動して、町内産の食材だけを使用したトマトチキンカレーとポテトサラダを協力し合いながら作りました。

カレーを煮込む間には、紙芝居やフードロスカルタで地産地消や食品ロスについて学びました。

大崎小学校5年の今吉華歩^{かほ}さんは「収穫した野菜を使ってみんなで料理して楽しかった。トマトの味がして美味しい」と話してくれました。



スウェーデンから学ぶSDG s 勉強会

6月1日(木)、町保健センターにおいて、合作株式会社主催による「スウェーデンから学ぶ職員向けSDG s 勉強会」がおこなわれました。

株式会社ワンプラネット・カフェ代表取締役のエクベリ聡子さんと、同社取締役のペオ・エクベリさんから、町職員が、SDG s 達成率上位のスウェーデンでおこなわれている取り組みを学びました。

(有)そおりサイクルセンターの視察や今回の勉強会を通してエクベリさんは「大崎町では一人一人小さいことを積み重ねたことにより成果が目に見える。この裏側には人の手、町民の協力があるからだと思います。ごみではなく資源だと全国に広げていき、知ってもらうことが大切です」と話されました。



DX推進に向けフェロー委嘱

5月31日(水)、大崎町フェロー委嘱式がおこなわれました。これは、国を挙げて取り組んでいるDX^{*}(デジタル変革)を本町においてもより一層推進するため、専門的知見から支援、助言をおこなうフェロー^{*}として、陳内裕樹さん(鹿児島県DX戦略アドバイザー)と小出泰久さん(大阪教育大学客員教授)を委嘱したものです。陳内さんは「総合政策」を、小出さんは「教育政策」を担当し、住民サービスや教育など行政運営を進めていくうえでの課題を抽出し解決のためのアドバイスをいただく予定です。

^{*}DXとは：デジタル技術を社会に浸透させて、人々の生活をより良いものへと変革すること。

^{*}フェローとは：研究職等にあたえられる職名または称号